

自己評価結果公表シート

令和4年度門真めぐみ幼稚園

めぐみっこクラブ

1、園の教育目標

寺院より発祥した歴史的な基盤をもとに「あたたかい心の教育」を実践しています。それゆえに教育方針は「精神的には良寛上人に学び、その実践的技術は現代に学ぶ」を根底におき次のような「五つのちかい」により子どもたちの目標像を明らかにしています。

- 一、私たちは良き挨拶をする子どもになります
- 一、私たちは良きビジョンをもつ子どもになります
- 一、私たちは良く学ぶ子どもになります
- 一、私たちは良く感謝する子どもになります
- 一、私たちは良く奉仕する子どもになります

この「誓い」は仏教の「五正行」の教えをもとに考案し、子どもたち一人一人の生涯にわたる指針としても役立つものと考えています。

2、本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

- 本園の上記の方針に沿って、園児の「幼児期に育てほしい10の姿」を、園生活を通して相互に関連を持たせながらバランスよく総合的に養う。語の数が増える幼児期に絵本に楽しむこと、絵本のコーナーを充実「童話・童謡」に親しみを持つ。又古くから伝わる、こどもの日、七夕、お月見、ひな祭りなどの年中行事を園全体の「集い」とし、影絵、人形を使用し、子供たちに親しみながら興味を持たせる。また三輪車を体育遊びに引き続き導入しアクティブラーニングを取り入れ、ルールを守ること、体を使って遊ぶことの楽しさを知り、体力向上を目指す。
- 従来通りの取り組みをしながらコロナ禍の中での幼児教育・保育の充実を目指す。

3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	評価	取 組 状 況
保育内容及び指導のあり方等を精査し、教職員間の共通理解をはかる	A	<ul style="list-style-type: none">○ 保育内容を充実させるために毎週学年ごとにチーフを中心に話し合い保育の展開に役立てる。○ 日々の保育の延長上に「行事」(運動会・音楽会 etc)があること、経験することにより子ども一人一人が自信を持てるよう適切に個々に言葉をかける。○ 安全管理については各保育室、遊具の点検票を作成し行っている。防災意識を高めるため、避難訓練を毎月保育の中に取り入れている。○ 特別支援については一人一人個々により発達が違うので指導計画を立て時には、市の発達相談を踏まえ、また保護者の意見も重視しながら個別支援計画を立てている。

		<ul style="list-style-type: none"> ○ 食育については、給食時に赤（身体を作る基礎となる）・緑（身体の調子を整える）・黄色（身体を動かすエネルギーとなる）の色分けし学びを取り入れ、同時にマナーも学習。園庭に四季折々の草花も育て、クラスごとに夏野菜を決めて栽培し、冬は水耕でカイワレ等を栽培している。
教育の質の向上のために、園内研修を充実させる	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵画・制作では学年ごとに講師を招き、園内研修を充実し、公開保育を目指している。発達段階に沿った「あそび」を学び、子ども達に還元する。 ○ ○ 体育遊びは講師を招き、年間カリキュラムを作り行う。学期ごとに講師より研修を受けている。 ○ 外部研修に参加後はレポートを提出し、同時に保育に活かせるように考える。
保護者のニーズの把握に努め、要望や苦情に適切な対応を図る	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年 2 回の懇談会により、保護者のニーズの把握をし、クラス単位の HP で園の生活が保護者に伝わるように工夫した。 ○ バスキャッチ導入により保護者の要望である保健衛生情報、例えばインフルエンザ、麻疹、水疱瘡等を手軽に知らせることが出来ている。 ○ 保護者の要望(クレーム等)は真摯に受け止め、園全体で把握、素早く対処し、終了で職員に共通理解をしている。 ○ 子供についての相談等、担任は時間の許す限り保護者とコミュニケーションを取るようにして信頼関係を築いていく。
地域社会との連携	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 園庭開放やめぐみ広場を通して地域の人々と交流し、HP や園の正門、バス等で行事を周知し地域の安心できる遊び場として、又、子育てのセンター的な役割が果たすことができるよう努力している。 ○ 盆踊り等と季節の行事に地域の方と交流している。
情報公開	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者が入園を選択するという幼稚園の特性より、積極的に園だよりやホームページで園の方針や教育活動などを伝えるように努めてきた。22年度より「毎日のできごと」等、クラス単位での活動を公開し、毎年さらなる充実を目指している。 ○ HP 上に「情報公開」の項目を公開している。 ○ 子育て支援(園庭開放・めぐみ広場・さくらんぼ組)の日程をトップページの「おたより欄」に掲載し、地域の方々に伝えている。

A. 十分達成されている B. 達成されている C. 組み込まれているが、成果が十分ではない
D. 組み込みが不十分である

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

B	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ禍の為、行事の規模は縮小したが「中止」ではなく「開催」を前提に初めて経験することを実行、一定の評価を得た。 ○ 園の特色教育の充実に向け、自己点検、自己評価を実施、充実した実践が出来るように努力している。
---	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 感染症対策の一環として、密を避けすべての活動において間隔をあけて並ぶことに留意して活動を行った。 ○ コロナ禍での日々の保育や行事の内容を検討し、見直していき、例年に少しでも近づき子供たちの自信や意欲につながるよう取り組んだ。 ○ 園が「子育て支援」の情報をHPで発信していくことにより地域とのつながりや家庭との連携を深める。 ○ 基本的な生活習慣の自立に向け、年齢に応じて指導を継続的に行っていこうと考えている。
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

- A. 十分達成されている B. 達成されている C. 組み込まれているが、成果が十分ではない
D. 組み込みが不十分である

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
園に対する保護者の満足度の把握	規模を縮小して例年通りとはいかないが行事等について保護者から構成している後援会や実行委員の方々と話し合いながらすすめている。結果として、決して満足度が最高ではないが、一定の評価を得ている。
子育て支援の充実	未就園児保育・園庭開放等子育て支援に加え、終了後も子育て相談を行い、適時アドバイスをする。 子育て支援の低年齢化が傾向としてみられ、より幅広い知識を身につけることに注力している。
心を育てる教育	仏教園ならではの特徴性を生かし 1、教師や友達のかかわりを通して、思いやりや自己肯定感を育てていく 2、ルールやマナーを守り、相手の立場に立って考える等規範意識を育てていく。 上記を踏まえ、運動会・生活発表会・絵画制作展などの「行事」を通して、教師との関わりの中で自尊感情、自己有用感を育む。
教育・保育要領の改訂の方向性と整合性の確保	幼児期の終わりまで育ってほしい姿をアクティブラーニングの視点から保育内容を見直す為、職員研修の外部研修の機会を設け、府の幼児教育アドバイザーの資格取得者や上申講習者を増やすことにより、園内研修の充実、改訂の方向性を計り、職員の質向上を目指しているが、個人差が大きい部分もある。
インクルーシブ教育	増加傾向にある支援を要する子どもについては、インクルーシブ教育を目指すと共に、職員や行政の巡回相談を活用し対応しているが、保護者との認識の差異がある場合がある。その場合、園児の特性に見合った体制を構築していくなかで、予算や職員配置についての理想と現実に悩むことも多々ある。
防災・防犯に対する意識の向上	880万人の訓練など、積極的に取り入れ毎月の防災、防犯避難訓練を通し、園児への防災教育は徹底してきた。防災計画の周知を保護者説明会等で行い、積極的に情報発信を行い、意識の向上に努めていく。 また、園児には平常時から防災力の向上を図っていくため紙芝居を通して防災教育を図っている。

学校関係者評価

- コロナ禍でのイベントも本年度はすべて行うことができ良かったと思います。
- 今年（R4年度）は少しずつ制限も緩和され、イベントも入場制限やクラス毎に日にちを分けたりがあったものの例年通りの行事が楽しめたかと思います。これも大変な中先生方が頑張って準備をしていただいたお陰です。ありがとうございました。感謝の気持ちでいっぱいです。
そして私個人が思うのですが、心残りなのが給食です。たくさんの意見があるのは承知の上ですが、お友達の後頭部を見ながら（6人が前を向いて食べるため）…やはり親としては寂しいものがあります。お友達の顔を見てニコニコと笑顔で美味しい給食を食べてほしいです。子どもたちには必要なことのように思います。あと、次の年は全学年の子が花火をみれたらいいなあと思います。先生方、大変な中いつも本当にありがとうございます。いつもたくさんの思い出をありがとうございます。
- コロナ禍での制限がある中、様々な工夫をして行事を開催していただき、誠にありがとうございました。少しずつですが緩和されていくことが見えてきたので、この三年間のことを生かして次年度からどんどんイベントを開催していただき、園生活を盛り上げていってください。
- コロナ禍のなか、職員と実行委員との話し合いを重ね、予定していた全ての行事をすることができ、親も子どもも共に楽しめました。準備や通常の保育での多忙の中でも、いつでも笑顔で接してくれる先生方ばかりで、安心してお任せすることができました。
少しずつ行事の内容も例年通りにできるといいですね。子どもたちは本当に毎日楽しく通うことができたと思います。職員の皆様のおかげです。本当にありがとうございました。
- R4年度もコロナ禍が続いて行事の内容や観覧が制限されたりしましたが、先生方が工夫されて以前と同様とはいきませんが、様々な行事が開催できて子どもたちもいい経験になったと思います。先生方には本当に感謝しています。
これから行事も徐々に以前のように開催できたら嬉しく思います。子どもたちの経験や思い出をこれからも沢山作ってほしいです。この三年間本当にありがとうございました。
- 一斉保育だけでなく、朝の時間の子どもたちが様々なクラスの部屋に入り、先生が用意した教材など他学年の友達と関わるができる姿をみる事ができた（公開保育より）
- この時期にとっても落ち着いていて保育教育に参加していて落ち着いた中で一人一人の思いが伝わる内容でとても良かった。（公開保育より）
- 今後この形に自由教育をどうつなげ環境構成が工夫されることを願いたい。設定保育で身につけた造形の形を自由保育の中でうまく繋げると素晴らしいだろうと感じた。（公開保育より）